

第3章

生活者の健康と薬・医療とのかかわり

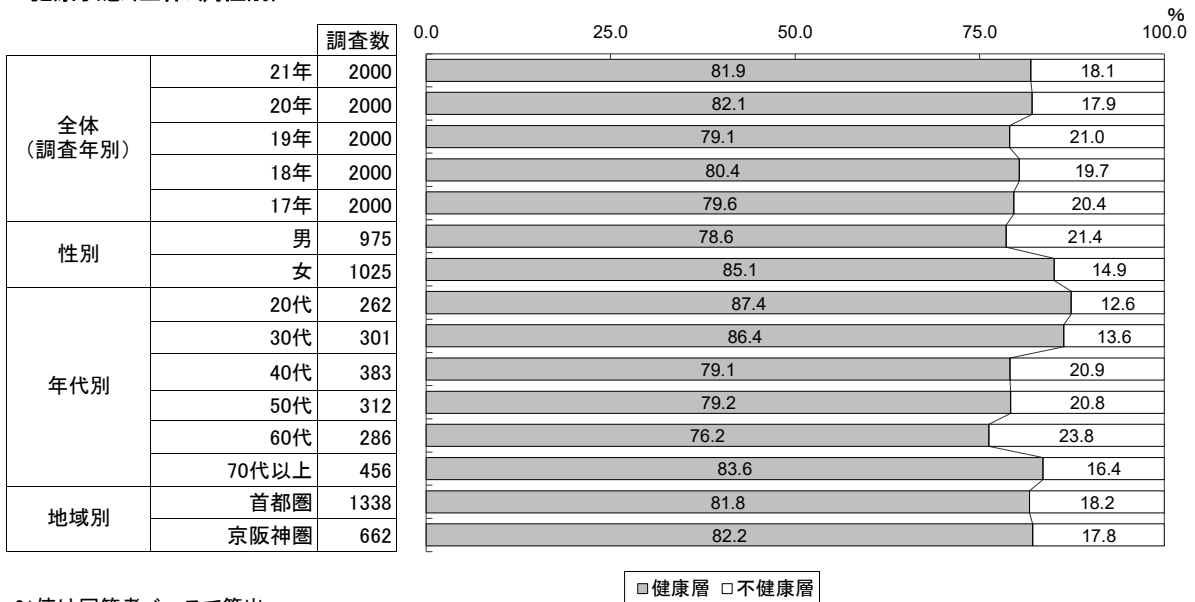
1 健康状態と受診経験

(1) 健康状態 [F5]

「まあ健康(普通)」70%「非常に健康」12%、「健康層」の割合は82%

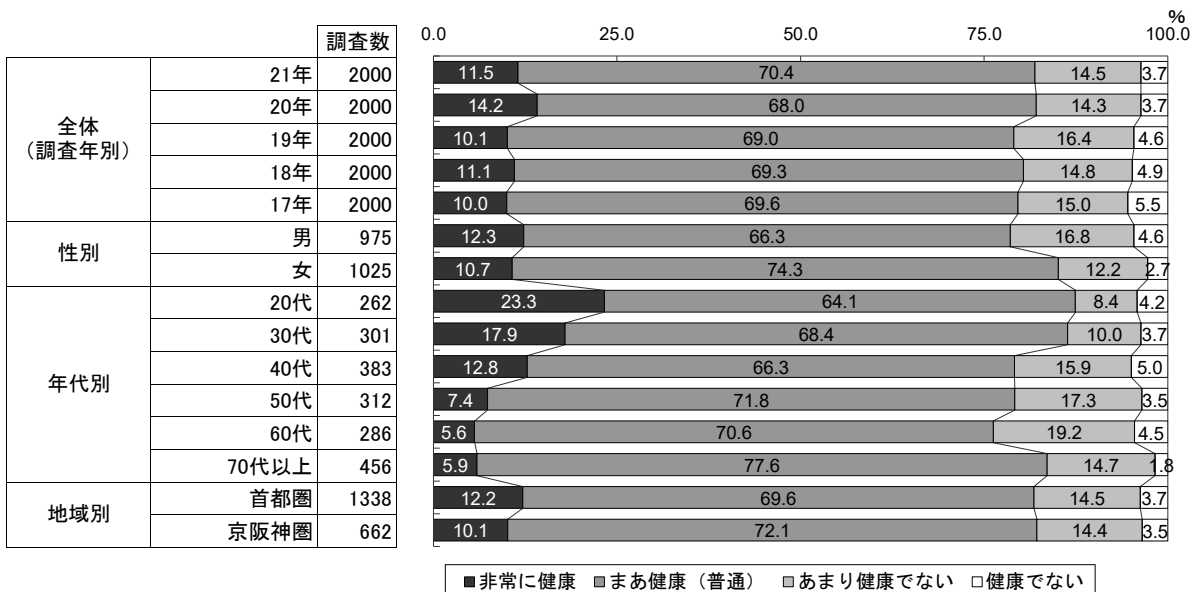
- 自身の健康状態について、「健康」（「非常に健康」「まあ健康(普通)」）と回答したのは81.9%であり、前回に比べて0.2ポイントの微減となっている。
- 健康層の割合は、性別では、女性の方が6.5ポイント男性より高い。年代別では、20代が87.4%で最も高く、60代が76.2%で最も低い。70代以上になると反転上昇し、60代を7.4ポイント上回る。「非常に健康」の割合は、最も高い20代は23.3%で、60代までは年代が上がるにつれて減少する。60代と70代以上に差はほとんどない。

図表96. 健康状態(全体/属性別)



注1) %値は回答者ベースで算出
 注2) 「健康層」=「非常に健康」「まあ健康(普通)」の合計比率
 「不健康層」=「あまり健康でない」「健康でない」の合計比率

図表97. 健康状態(全体/属性別/要因別)



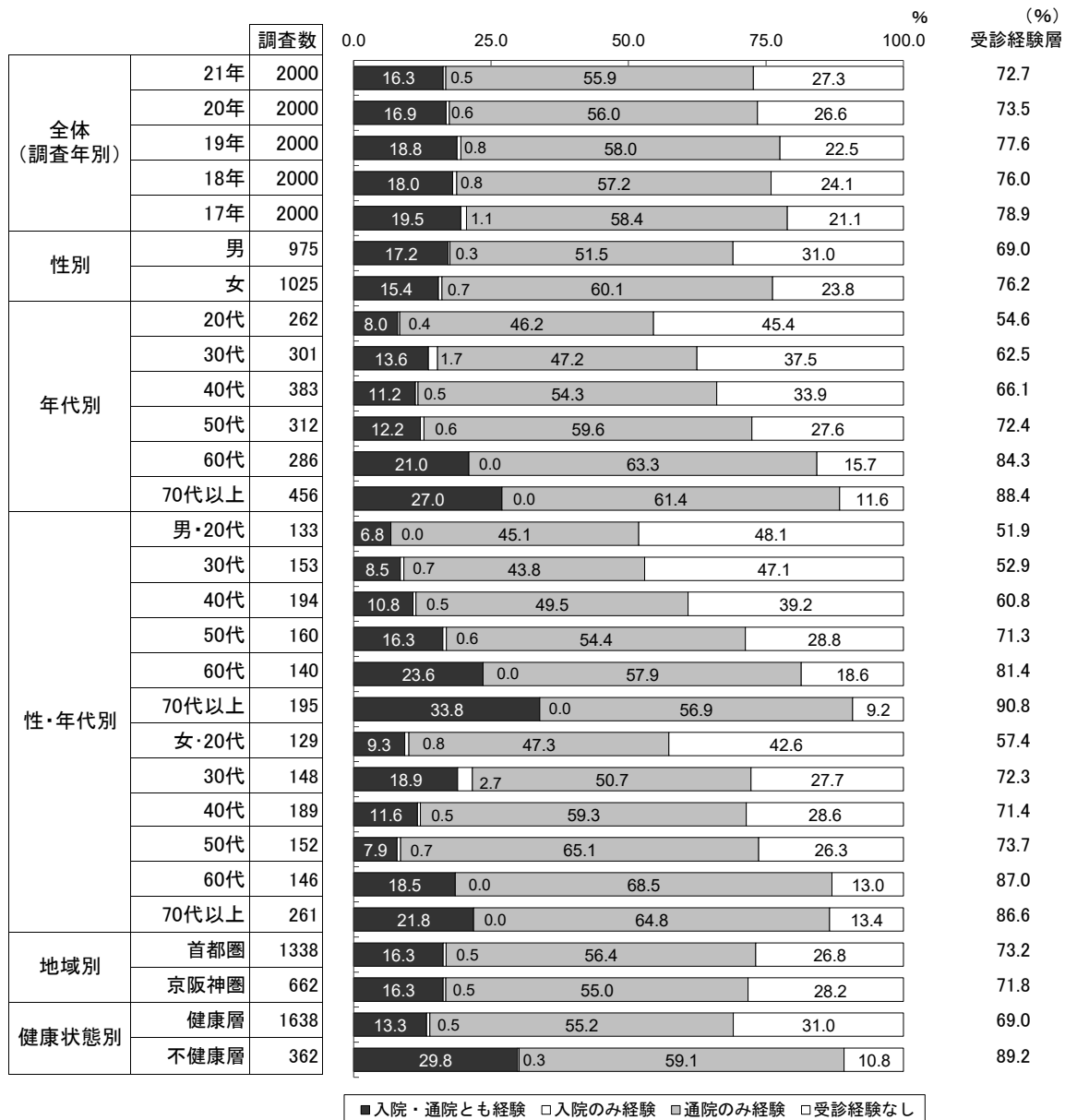
注) %値は回答者ベースで算出

(2) 受診経験 [問1-(1) * (2)]

受診経験率は73%、直近3年間で受診経験がないのは27%

- 直近5年間で「入院」、直近3年間で「通院」、または「入院・通院とも経験」したことがある受診経験層は72.7%であり、前回より0.8ポイント減少した。
- 性別でみると、受診経験率は女性の方が男性より7.2ポイント高い。性・年代別でみると、最も高いのは男性70代以上の90.8%で、女性60代87.0%、女性70代以上86.6%と続く。
- 健康状態別では、不健康層は受診経験率が89.2%と健康層より20.2ポイント高く、「入院・通院とも経験」した割合は健康層が13.3%に対し、不健康層は29.8%と2倍を越えている。

図表98. 受診経験（全体/属性別/要因別）



注1) %値は回答者ベースで算出

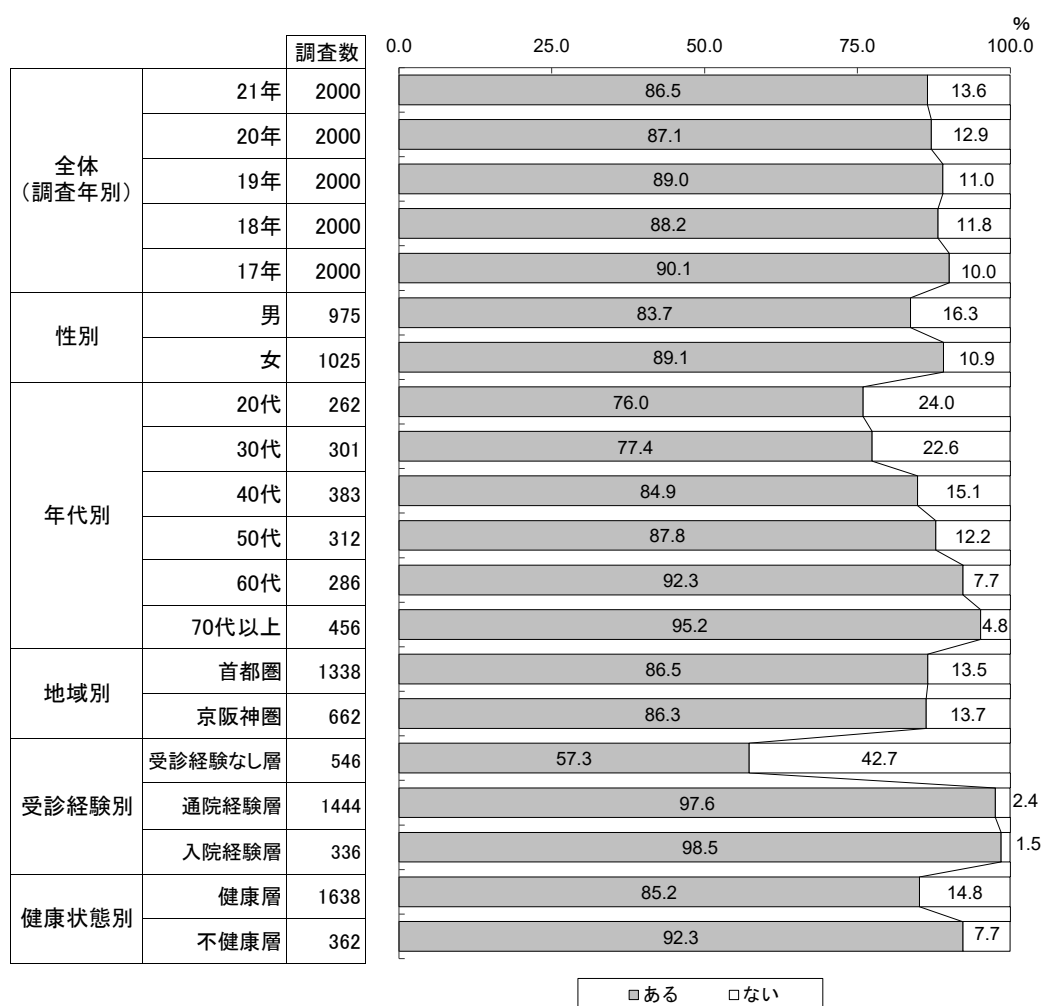
注2) 「受診経験層」=「入院・通院とも経験」「入院のみ経験」「通院のみ経験」の合計比率

(3) 処方薬の服用経験 [問2]

処方薬の服用経験率は87%

- 処方薬の服用経験が「ある」と回答したのは86.5%であり、前回より0.6ポイント減少している。
- 年代別にみると年代と共に服用経験率が上昇し、20代の76.0%に対し、70代以上では95.2%と19.2ポイントと大差がある。
- 受診経験別では、通院経験層97.6%、入院経験層98.5%と差は僅か。健康状態別では、不健康層92.3%、健康層85.2%となり、7.1%の差があった。

図表99. 処方薬の服用の有無（全体/属性別/要因別）



注1) %値は回答者ベースで算出

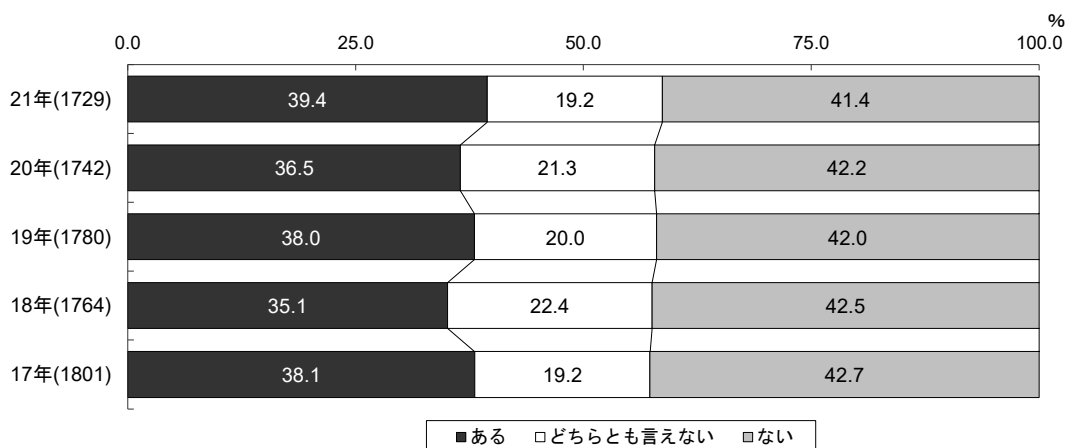
注2) 「受診経験」は、「通院経験」が過去3年間、「入院経験」は過去5年間の経験で聞いていることから、「受診経験なし層」でもそれ以前に経験していれば、「処方薬の服用の経験」はあり得る。

(4) かかりつけ薬局の有無 [問6]

かかりつけの薬局がある割合は全体の39%

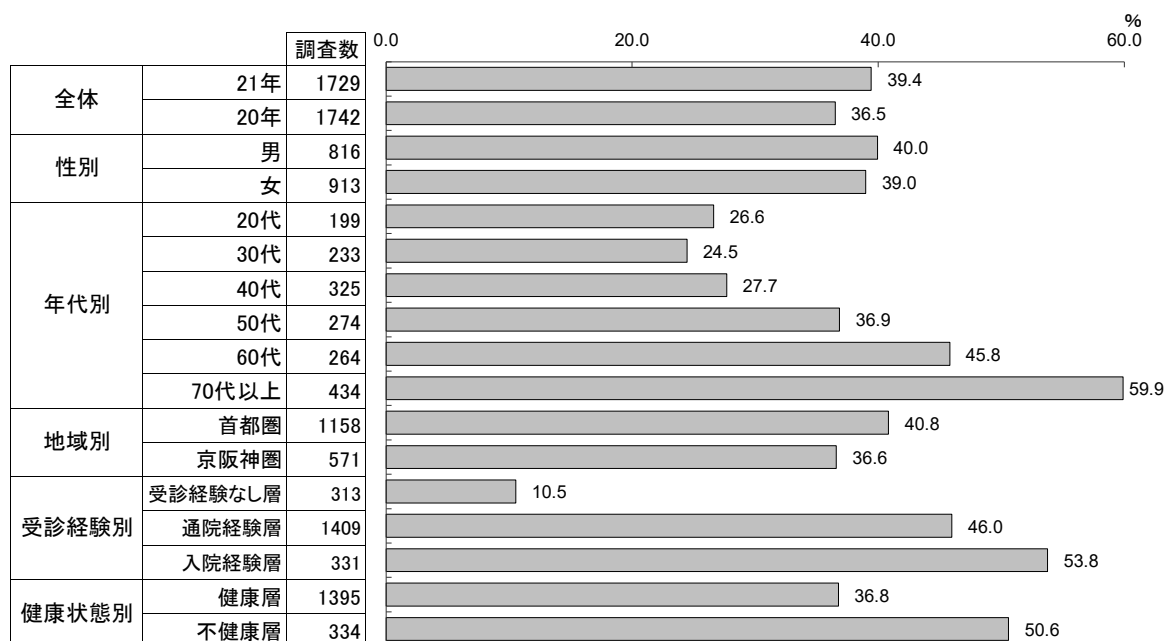
- 「かかりつけの薬局」が「ある」と回答したのは全体の39.4%で、前回より2.9ポイント増加している。「ない」との回答は41.4%で、前回から0.8ポイントの微減。
- 性別でみると、「かかりつけ薬局」がある割合は男女ほぼ同じ。年代別でみると、最も低いのは30代だが、概ね年代が上がるほど高くなる傾向。30代の24.5%に対し、最も高い70代以上は59.9%と2倍以上の開き。
- 受診経験別にみると、入院経験層が53.8%、通院経験層は46.0%に対し、受診経験なし層は10.5%と大差がある。健康状態別では、不健康層が50.6%と高いが、健康層では36.8%と全体に比べ低い。

図表100. かかりつけ薬局の有無 (全体/21年/20年/19年/18年/17年)



注) %値は回答者ベースで算出

図表101. かかりつけ薬局がある人の比率 (全体/属性別/要因別)

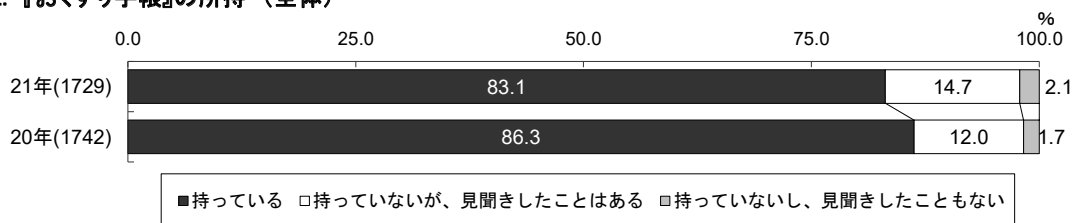


(5) 『おくすり手帳』の所持 [問6-1]

『おくすり手帳』を持っているのは全体の83%

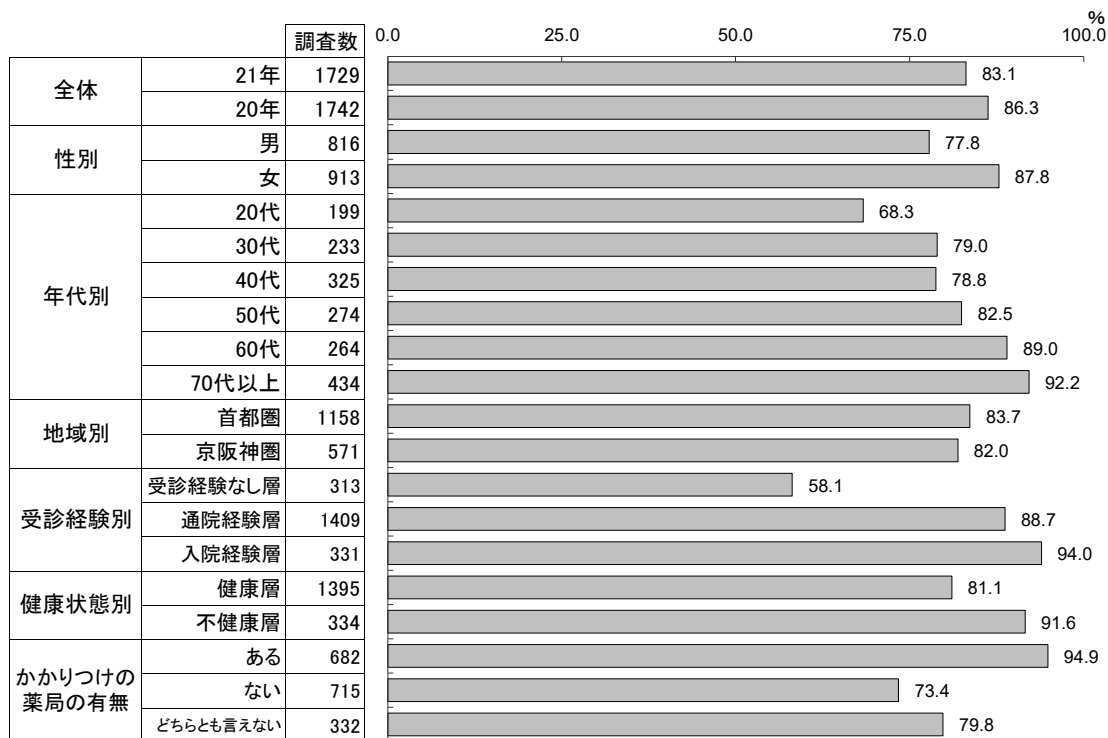
- 『おくすり手帳』を「持っている」と回答したのは全体の83.1%で、前回より3.2ポイント減少。「持っていないが、見聞きしたことはある」は14.7%、「持っていないし、見聞きしたこともない」は2.1%とごく少数。
- 性別でみると、『おくすり手帳』の所持率は男性77.8%に対し、女性は87.8%と明らかな差がある。年代別には高年代ほど所持率が高く、20代は68.3%に対し、70代以上では92.2%に達する。
- 受診経験別では、入院経験層94.0%、通院経験層88.7%に対し、受診経験なし層は58.1%と大差。かかりつけの薬局有無別でも、ない層73.4%に対し、ある層は94.9%と顕著な差がある。

図表102. 『おくすり手帳』の所持（全体）



注1) %値は回答者ベースで算出
注2) 20年調査新設

図表103. 『おくすり手帳』を持っている人の比率（全体/属性別/要因別）

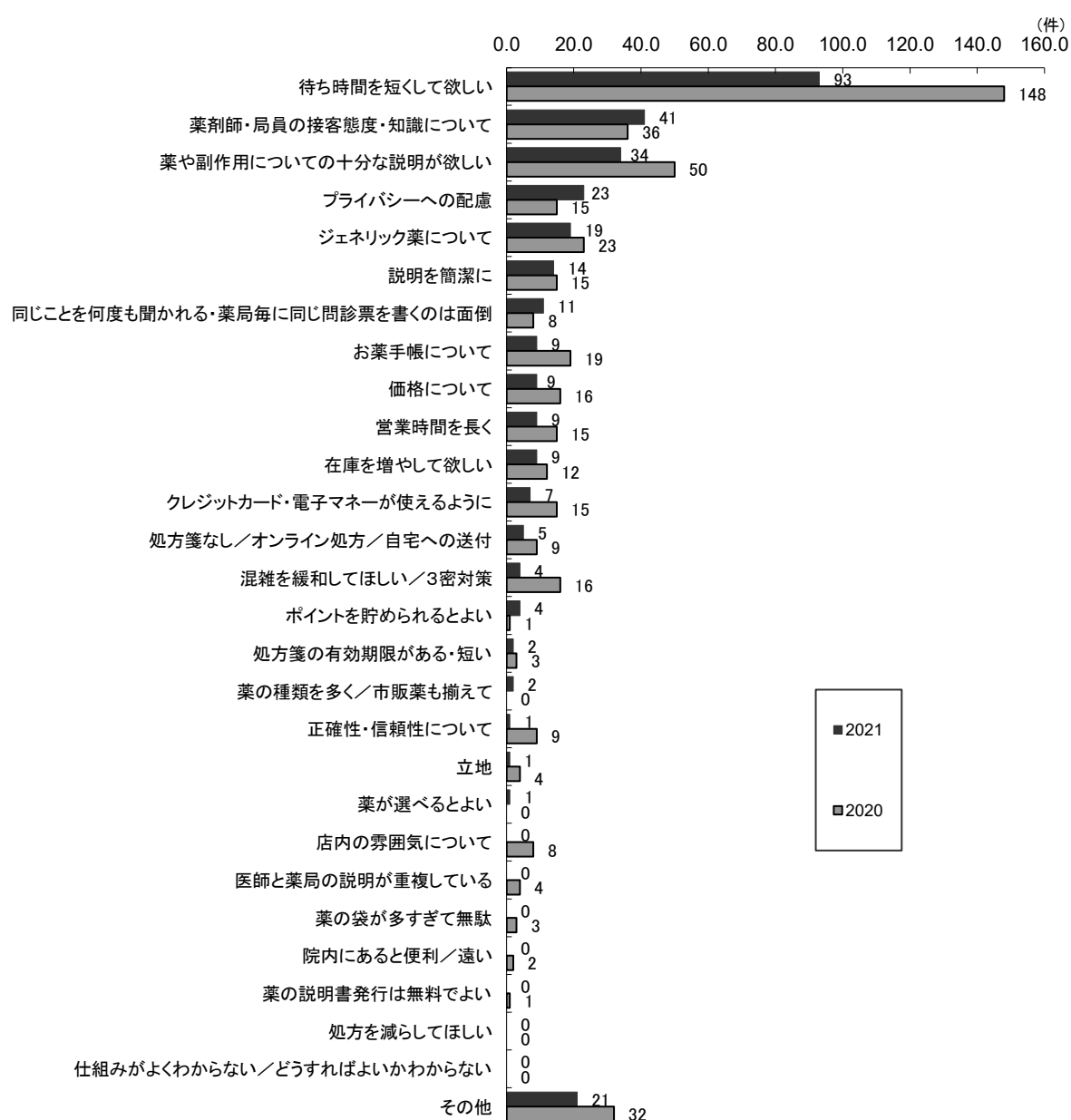


(6) 利用している調剤薬局に対する要望 [問7 自由意見]

要望 1 位「待ち時間の短縮」、2 位「薬剤師・局員の接客態度・知識」

■利用している調剤薬局に対する要望で最も多かったのは、「待ち時間を短くしてほしい」の93件で他を圧倒している。次いで、「薬剤師・局員の接客態度・知識について」41件、「薬や副作用についての十分な説明が欲しい」34件、「プライバシーへの配慮」23件、「ジェネリック薬について」19件と続く。前回に比べ、「待ち時間を短くしてほしい」の回答数は大きく減少し、「薬の副作用についての十分な説明が欲しい」も減少している。目立って増加した要望はない。

図表104. 利用している調剤薬局に対する要望（全体/21年/20年）【自由意見】



注) 21年/問7の記入率は23.8%、305件であったが(特になし等除く)、記入された文章の中で異なる考え方が併記されている場合は、ひとつの意見としてカウントしていることから、合計のn数とは一致しない。20年の記入率は25.9%、451件(特になし等除く)

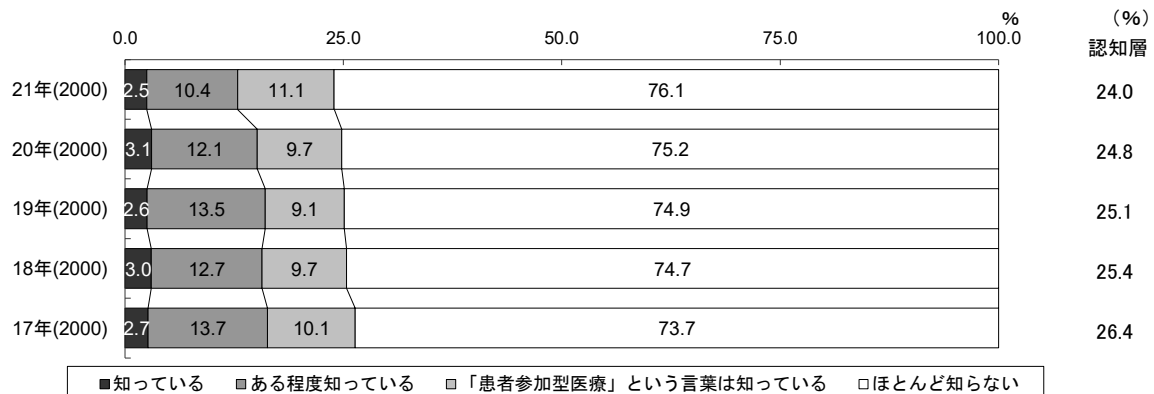
2 「患者参加型医療」に対する認識

(1) 「患者参加型医療」の認知 [問19]

「患者参加型医療」の認知は24%で、漸減傾向が続く

- 「患者参加型医療」について、「知っている」のは2.5%、「ある程度知っている」10.4%、「『患者参加型医療』という言葉は知っている」11.1%、「ほとんど知らない」76.1%となっており、「ほとんど知らない」を除いた認知層は24.0%で、認知層は漸減しており、今回も前回から0.8ポイント減少した。
- 認知層の割合は、性別による差はない。年代別で見ると、20代から60代までは差がなく、70代以上になると31.8%に増加する。
- 受診経験別の認知率は、高い順に入院経験層、通院経験層、受診経験なし層。

図表105. 「患者参加型医療」に対する認知（全体/21年/20年/19年/18年/17年）



注1) %値は回答者ベースで算出

注2) 「認知層」=「知っている」「ある程度知っている」「『患者参加型医療』という言葉は知っている」の合計比率

注3) 21年調査より「患者参加型医療」が提唱されるを「患者参加型医療」について、あなたはご存知ですか」に変更

図表106. 「患者参加型医療」に対する認知（全体/属性別）

(単位: %)

	調査数	知っている	ある程度知っている	『患者参加型医療』という言葉は知っている	ほとんど知らない	認知層 (%)	
							21年
全体	21年	2000	2.5	10.4	11.1	76.1	24.0
	20年	2000	3.1	12.1	9.7	75.2	24.8
性別	男	975	3.4	11.0	11.1	74.6	25.4
	女	1025	1.7	9.9	11.0	77.5	22.5
年代別	20代	262	3.4	9.9	9.5	77.1	22.9
	30代	301	4.0	8.3	8.3	79.4	20.6
	40代	383	1.8	6.5	11.2	80.4	19.6
	50代	312	2.6	9.3	10.9	77.2	22.8
	60代	286	1.7	11.2	10.1	76.9	23.1
	70代以上	456	2.0	15.6	14.3	68.2	31.8
地域別	首都圏	1338	2.9	10.7	11.3	75.1	24.9
	京阪神圏	662	1.7	9.8	10.6	77.9	22.1
受診経験別	受診経験なし層	546	1.3	6.8	7.1	84.8	15.2
	通院経験層	1444	3.0	11.8	12.5	72.8	27.2
	入院経験層	336	3.6	12.5	14.3	69.6	30.4
健康状態別	健康層	1638	2.7	10.4	10.9	76.0	24.0
	不健康層	362	1.7	10.5	11.6	76.2	23.8

注1) %値は回答者ベースで算出

※20年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

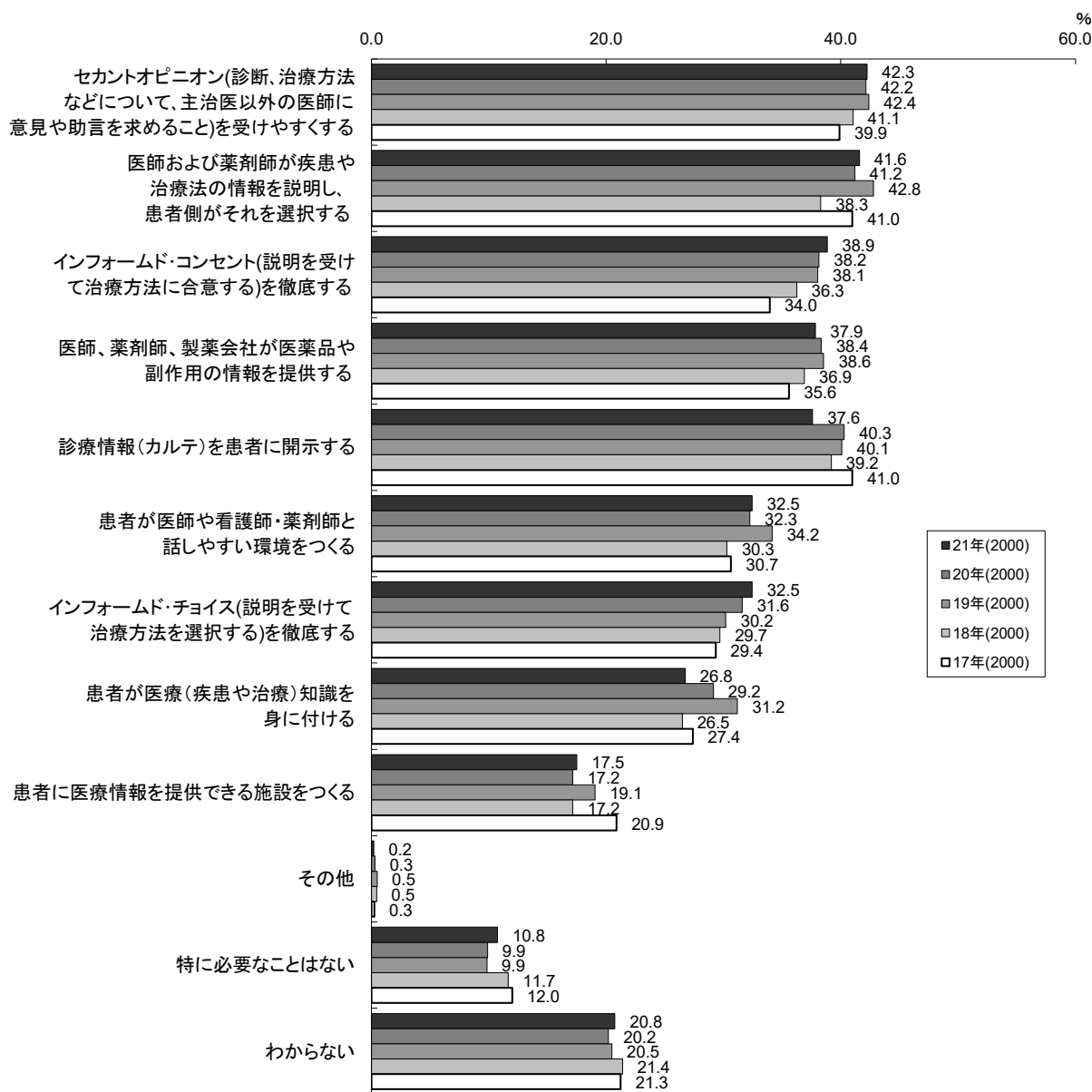
注2) 「認知層」=「知っている」「ある程度知っている」「『患者参加型医療』という言葉は知っている」の合計比率

(2) 「患者参加型医療」に必要なこと [問20]

セカンドオピニオンの受けやすさ、患者側の選択、インフォームド・コンセント

- 患者や家族の立場として、「患者参加型医療」に必要なことは、上位から「セカンドオピニオン(診断、治療方法などについて、主治医以外の医師に意見や助言を求めること)を受けやすくする」42.3%、「医師および薬剤師が疾患や治療法の情報を説明し、患者側がそれを選択する」41.6%、「インフォームド・コンセント(説明を受けて治療方法に合意する)を徹底する」38.9%、「医師、薬剤師、製薬会社が医薬品や副作用の情報を提供する」37.9%、「診療情報(カルテ)を患者に開示する」37.6%の順。
- 時系列でみると、「インフォームド・コンセントを徹底する」「インフォームド・チョイスを徹底する」は増加傾向が続いている。

図表107. 「患者参加型医療」に必要なこと (全体/21年/20年/19年/18年/17年) 【複数回答】



注1) %値は回答者ベースで算出

注2) 「患者に医療情報を提供できる施設をつくる」に17年調査から「データベース」を追加。

注3) 「患者に医療情報を提供できる施設やデータベースをつくる」を18年調査から「データベース」を削除

- 性別でみると、全項目（「その他」以下を除く）で男性より女性の方が数値が高い。特に「セカンドオピニオン（診断、治療方法などについて、主治医以外の医師に意見や助言を求めること）を受けやすくする」「患者が医師や看護師・薬剤師と話しやすい環境をつくる」では差が大きい。
- 年代別では、大半の項目で年代が上がるほど高くなり、70代以上は1項目を除いて他年代より高い。特に「セカンドオピニオン（診断、治療方法などについて、主治医以外の医師に意見や助言を求めること）を受けやすくする」「医師および薬剤師が疾患や治療法の情報を説明し、患者側がそれを選択する」「医師、薬剤師、製薬会社が医薬品や副作用の情報を提供する」は50%超と高い。なお、20代では30.2%が「わからない」としている。
- 受診経験別では、通院経験層、入院経験層は受診経験なし層より全般的に高いが、通院経験層と入院経験層との間では大きな差はみられない。不健康層は、全項目で健康層より高くなっている。

図表108. 「患者参加型医療」に必要なこと（全体/属性別/要因別）

（単位：%）

		調査数	セカンドオピニオン（診断、治療方法などについて、主治医以外の医師に意見や助言を求めること）を受けやすくする	医師および薬剤師が疾患や治療法の情報を説明し、患者側がそれを選択する	インフォームド・コンセント（説明を受けて治療方法に同意する）を徹底する	医師、薬剤師、製薬会社が医薬品や副作用の情報を提供する	診療情報（カルテ）を患者に開示する	患者が医師や看護師・薬剤師と話しやすい環境をつくる	インフォームド・チョイス（説明を受けて治療方法を選択する）を徹底する	患者が医療（疾患や治療）知識を身に付ける	患者に医療情報を提供できる施設をつくる	その他	特に必要なことはない	わからない
全体	21年	2000	42.3	41.6	38.9	37.9	37.6	32.5	32.5	26.8	17.5	0.2	10.8	20.8
	20年	2000	42.2	41.2	38.2	38.4	40.3	32.3	31.6	29.2	17.2	0.3	9.9	20.2
性別	男	975	35.2	37.1	34.4	33.3	35.2	27.0	27.5	24.2	15.2	0.2	13.4	22.8
	女	1025	49.0	45.9	43.1	42.1	39.9	37.7	37.2	29.2	19.7	0.2	8.2	18.8
年代別	20代	262	27.1	27.9	30.5	25.6	24.8	23.7	24.4	21.4	12.2	0.4	16.8	30.2
	30代	301	34.9	32.9	30.6	30.2	34.2	26.6	28.6	26.2	18.3	0.0	13.6	25.6
	40代	383	38.4	39.7	37.3	36.3	38.6	30.5	31.6	29.0	18.8	0.3	11.5	20.6
	50代	312	47.1	44.9	40.4	40.1	38.5	33.3	33.0	23.7	15.7	0.0	9.0	17.3
	60代	286	44.8	43.0	41.3	37.4	42.0	33.2	33.6	26.2	21.7	0.3	8.4	23.1
	70代以上	456	54.2	53.7	47.8	50.0	43.0	41.9	39.3	30.7	17.5	0.2	7.5	13.2
地域別	首都圏	1338	41.2	41.8	39.5	38.0	38.6	32.0	33.0	28.0	17.3	0.1	11.3	20.6
	京阪神圏	662	44.4	41.2	37.5	37.5	35.5	33.4	31.4	24.3	18.0	0.3	9.7	21.1
受診経験別	受診経験なし層	546	33.0	29.9	28.6	27.7	28.9	21.2	25.1	19.4	14.1	0.2	16.3	30.0
	通院経験層	1444	45.9	46.1	42.9	42.0	41.0	36.9	35.4	29.6	18.8	0.2	8.6	17.1
	入院経験層	336	44.9	47.6	39.0	42.3	39.3	39.0	33.9	30.7	18.8	0.0	8.0	18.2
健康状態別	健康層	1638	41.1	40.3	37.6	36.6	37.0	30.3	31.1	24.8	16.4	0.2	11.5	20.9
	不健康層	362	47.2	47.5	44.5	43.4	40.3	42.0	38.7	35.4	22.7	0.3	7.2	20.2

※21年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

注1) %値は回答者ベースで算出

注2) 「患者に医療情報を提供できる施設をつくる」に17年調査から「データベース」を追加。

注3) 「患者に医療情報を提供できる施設やデータベースをつくる」を18年調査から「データベース」を削除